

センサー

1985年 1月号 第14号

東京温度検出端工業会 会報

年頭にあたって

二宮三郎

毎年初めに年頭のことばというが、技術をその生計としている者には毎日、毎月が新しい初めであり、技術開発には心の直観力、これが新しい初めであろう。直観は苦しみ抜いたあとに得るひらめきでこの時が初めであり年頭だと心にきめてきました。

日本が加工輸出国として現在の経済を維持して平和で幸福な生活を営むために又国際社会の一員として生き抜くためにはなどと、小企業でも悩みがあります。石油価格は落ちついているが円は安い、イランとイラク戦争は次に何が起きるか、いつも世界戦争の火薬庫は中東であったことを思い、平和はさけぶだけでは訪れない調停ができたらと願う。最近日本から調停を申出たが、果して戦争の当事国が又はアラブ諸国に於て日本を信用するであろうか、日本人は砂漠に生きる民族を知らないで調停はできないと思う。砂漠という異様な環境に生れて育った民族には強い信念と何事にも耐える力があり一方では計算高く交際する相手には常に真心を求めてくる民族であって日本人的儀礼テクニックで交渉のできるような相手ではない。アラブ諸国には日本に対して悪い感情が根強くある。それは石油危機のときに日本から首相以下多くの要人が次から次と油ごい使節として一国当り2億円相当の土産品を持参して我が国だけは特別にという頼みをした。現在のように石油事情がよいと産油国を見向きもしない。こうした都合主義とか場当たり主義を最もきらう民族、又日本の政府要人に対する不信が強い。1982年に私がアラブの国を訪れた時にアラブ側政府の人々から聞いた話によると、故池田首相がアラブ諸国の代表が集っている席へ自から求めて出席しながら会議中に時計ばかり見て時間を気にして落ちつかなかった。大平首相は会議中に居眠りをしていた。こうした話しがアラブ諸国に伝えられて日本人不誠実となり不信を植えつけた。日本人のように75日で忘れて酒をのんで水に流すような民族ではない。相手に不信を持たれた日本が調停を申し出て平和のためと言っても聞き入れてはくれないと思います。

戦争は長期化傾向にあるという一般論が強い。戦争につきものである花の商人は活発に動いていた兵器は双方とも供給者がいる、ホルムズ海峡が運命を分ける時になるであろうと思った。石油、戦争より今年は国際金融が心に掛る。借りた金も利息さえ払えない国が続出した1984年、アメリカが最も心配していた南アメリカ諸国、イギリスとの戦争後遺症に加えてインフレと失業のアルゼンチンは再建ができない1984年3月、6月、9月と計15億ドルの金利がついに返せないためにアメリカの融資銀行コンチネンタル、イリノイ、ハノーバー銀行等が危険という情報さえ流れた。

アメリカの高金利は日本にも悪影響を及ぼし一パーセントの金利上昇は中南米諸国だけでも年間15億ドルの負担増となり強い不満が中南米にはある。国際金融機関は当方の指示通り再建政策を実施しなければ今後一銭の融資も援助もしないと決定。こうした国際金融の波はいかにアメリカの景気がよいと言ってもかげりが出初めてきた。日本としてもやがてその波は来ると考えてよいと思います。

次は日本国内について心配がある。国債の発行残高が今年度末には133兆円を越す。一年の金利が10兆3,000億円、一時間が1億円という利息のために又国債の発行という状態では国債発行は止まらない。インフレは必ず訪れる。企業に対する課税は世界一高くなり不公正税制の改正は一步も進まないで増税だけが先に走っていて民間の活力とさげんでも聞く事はない。GNPだ防衛費一パーセント、年中唄の文句のように政治は言うがGNPの真実さえよくわかっていない人が多い。昭和59年のGNPは300兆円を越すだろう。政府発表の国民所得統計速報の中には独身者や農家の所得は入っていない。こうした統計をもってGNPの一パーセントだとか政策の物尺に使ったり根拠とされていることに大きな誤りが生れている。例えば昭和58年の農家の総戸数は456万戸あって、その総申告所得額は3,718億円、それで実際の納税額は186億円、日本商社一社の納税額に等しい。国税庁もこれに不審を持ちやっとな腰をあげ、農家456万戸から14,000戸について調査した結果は287億円という隠し所得を発見している。全部の調査をしたら1,000億円は軽く出たであろう。サービス業小売業又は性産業などは無申告が多いから増々GNPは不確実と言ってよい。我々の業界では隠し所得は夢の又夢であってはげしい競争社会で生きるため輸出は、金融は、国際経済はと、技術革新と変動する社会にあって加工輸出工業国という宿命の一端を負って今年も信念を強く新にして努力したいと思っています。

昭和60年1月1日

会社紹介

八光商事株式会社

会社創立 昭和21年12月28日

代表取締役 坂井 修一

資本金 2,710万円

本社所在地 東京都台東区上野5-14-11

電話 (03) 831-8500 TELEX 265-5161

従業員数 200名

年商額 75億円

営業所 大阪・名古屋・福岡・横浜・大宮

株式会社 八光電機製作所

会社創立 昭和19年6月27日

代表取締役 坂井 修一

資本金 1,250万円

本社所在地 長野県埴科郡戸倉町大字戸倉3055

電話 (02627) 5-0121

従業員数 350名

年商額 50億円

八光商事(株)と(株)八光電機製作所を紹介しますが、その他に(株)八光エンジニアリングがあります。この会社は印刷機器業界のパイオニアで活字鑄造機、ダイカスト製品を主とし開発、設計から製造、販売まで独自で行っています。

八光商事と八光電機の関連は販売と製造です。当工業会と直接関係しているのは八光商事で国電秋葉駅と御徒町駅の間、点昭和通りに面した好条件に所在しています。主な事業としては電熱器各種(パイプヒータ)、熱電対、サーモスタット、注射針及其他医療用具、ステンレスパイプ、活字鑄造機、自動文選植字機、小物ダイカスト、省力機、ホテル営業まであります。実に多方面に活躍しています。特に八光技術陣の研究開発によるパイプヒータは安全で熱効率の優れている安定した寿命の長い製品となっています。売上比としては電熱関連6、注射針関連3、その他1の割合いで熱電対自体の割合いが弱くとも、その製品のユニークさで誇り高きものとなっています。汎用から付加価値の製品にと堅実な中にも意欲的経営の道を歩んでおります。

野本計器興業株式会社

本社・工場 東京都目黒区中町1-25-3

電話 03-712-8334

03-712-8297

代表取締役社長 野本 欽也

同社は昭和31年に初代社長、野本真敏氏及び森岡資夫氏（東北大学金属科出身）によって設立され、今年で創立29年目を迎えられております。現社長の野本欽也氏は昭和44年に選任され、同社長のもと少数精鋭体制で創立以来、熱電式及び抵抗式温度関連計器、圧力計、回転計などの各社計器の修理、又、当会関連での、熱電対、シース熱電対及び測温抵抗体の加工販売、或いは各種保護管の加工、又、測温抵抗体素子パーツの製造などを主要な業務とされております。

同社の計器修理技術はもとより、金型による各種部品のプレスなどの製作技術は、同社創立者の一人でもある前記森岡氏より現在まで脈々として引継がれ発展されておられます。

現社長の御長男及び御三男も活躍されておられ、若々しい御2人がリーダーとなり将来同社を背負っていかれ、益々の御発展が期待されます。

昭和59年11月温度検出端工業会見学会同行記

林 電 工 株 式 会 社

測 温 機 材 部 営 業 課

星 野 清

11月8日(木)林電工前を8時過ぎに出発、日本熱電機(株)童子社長のデラックスカーで順調に快適に、東北自動車道へ入る。晴天に恵まれ、田園？風景を楽しみながら一路北へ、蓮田SAにて西村工業前出発グループと合流。地の利から言って我グループがここで待つと考えていたが、他グループが既に到着しており一同びっくり。流石にドライブを御趣味にされている、杉本社長とまずは感心させられた。後はその杉本社長がアツ先のインターへ行ってしまうたアクシデントを除き無事、今日の目的地である(株)東芝那須工場へ到着。昼食後さっそく工場を案内して頂く。ここは医療機器を専門に製作している工場で、その為に我々の製造販売している測温機材は、ほとんど使用していないとのこと、広く手入の行き届いた工場内は整然としており働き易そうであった。また、この工場は、総合排水処理施設を実験プラントとして持っており工場外へ排水する直前には魚が住める状態にまでなっていた。

数種の医療機器が本館の入口に陳列されており、説明を受けたが特にX線コンピューター断層撮影装置は興味深くまた改めて医療機器の急速な発展に驚かされた。この装置は人間の体を輪切りにした状態でX線撮影が出来るもので今まで写りにくかった内臓等も良く診察出来る様になったとのことなので、特に肝臓に心配の種を持っておられる御同輩には吉報であろう。

工場見学を終えて少し時間があつたので近くにある乃木神社へ、境内の一部に展示してあつた鉢

植えの菊が、盛りを過ぎ、秋が早足で過ぎ去るのを感じさせていた。今日の宿泊地である塩原温泉へ行く途中の紅葉は、残念ながら盛りではなかったが、そこ、ここに残り、夕日に輝き目を楽しませてくれた。宿に着き風呂の後いよいよお待ちかねの宴会（正式には懇親会と云うそうである）、飲む程に、酔う程に、皆さんの十八番が出て来たが、その芸達者ぶりには驚かされると共に、だいぶ授業料を御支払になったと推察する。特に二宮会長、西村副会長、杉本社長の芸は普段なかなか拝見出来ないとのこと。賑やかな1次会が終り、2次会は幹事の室になったが、酒に弱い小生は途中で失礼して布団へ。翌9日も素晴らしい天気恵まれました。ホテルを出て、再び紅葉の名残りを楽しみながら東北自動車道へ。今度は南下して、久喜ICで降りて、久喜菖蒲工業団地内にある(株)千野製作所久喜事業所に昼前に到着。昼食後近くの昭和沼へ、人造池としては大変大きく、多数の水鳥が湖上で遊んでいる姿は、普段、都会で忙しく働いている私にとっては、とても印象的で目の保養になった。

午後、工場内を見学。こちらは見慣れた製品なので、親しみが持て作業者の配置、物の流れ方等いろいろ参考になった。又、この様な広い工場を早く持ちたいと、同行の上司と話し合っていた。

こちらの様な大手でも「最近短納期が多くて」とのこと。我々業界は、ますます短納期の対処の仕方が大きな課題となり、それを上手に切り抜ける事が業績の伸びに結び付く様な印象を受けた。

川口ICを出た所で皆様とお別れし、1泊2日の見学会を無事終えた。幹事の皆様、道中ずっと運転をされた、杉本社長、童子社長、土屋さん、本当に御苦労されて、有難うございました。私は今回初参加で初対面の方々が多く、心細い出発でしたが、そこは同業者の誼みで皆様とすぐ打ち解け、お話しが出来て楽しい見学会でした。また参加させて頂くことを楽しみにしています。

第10回、11回「けんたん会」報告。

第10回の大会は7月11日、東京よみうりカントリークラブにおいて行いました。プロゴルフの日本シリーズ等、テレビでも時々放映されますので御存知の方も多いかと思えます。夏に入っていたのですがそれほど暑くもなく楽しくプレーできました。よく知られたコースですので名界の著名人も数多くプレーしているようで、私達が受け付けをしている時にも野球解説者の江本氏等も見かけました。テレビ等でよく見る池越の18番ホール、そのグリーンの向こうにドームが見えます。私などはそれまで温室なのかな、と思っていたのですが、初めて行ってみてあれがクラブハウスなのだと知った次第です。さすがに良く手入れがゆきとどき、すばらしいコースでした。優勝は相互電機(株)の荻野社長でした。参加者12名。

第11回の大会は10月16日、武蔵カントリー倶楽部笹井コースで開きました。前年の豊岡コースはバンカーが多く大変苦労しましたがこちらの笹井コースはバンカーは少いのですが距離が長く、いづれにしても大変でした。秋の、最もコンディションの良い時に、すばらしいコースで楽しいゴルフができました。優勝は林電工(株)の林社長でした。

なお、今年の子定ですが、春5月頃平塚のレイクウッドを、秋には再びよみうりカントリークラブで行う計画をたてております。1人でも多くの参加者を希望しておりますのでどうぞ、ふるって御参加ください。

理事会

昭和59年6月7日定例

- ◎昭和59年度事業計画について
7月に講演会と懇親ゴルフ大会
9月に工場見学会を行う

昭和59年8月7日定例

- ◎9～11月事業計画について
8月に都立工技センター技術懇談会
10月第11回懇親ゴルフ大会
9月工場見学会
10月講演会又は技術講習会を行う
- ◎専門部会活動 シース抵抗体のJIS化について勉強会を行う
- ◎通産省の組織変更により7月1日より計量課が機械情報産業局総務課計量行政室になった

昭和59年10月5日定例

- ◎10月5日技術講演会、11月8日～9日一泊見学会を行う
- ◎工場見学会NECと交接中 1月に都立工技センターの技術懇談会を行う予定

昭和59年12月6日定例

- ◎新春懇親会を明年2月1日に行う、招待者、通産省、都立工技センター
- ◎3月又は4月にNEC見学会を行う
- ◎補償導線、ヒフク熱電対線の輸出のための検査規定撤廃について通産省に申請する

会の動き

- ◎昭和59年5月23日第11回定時総会及び懇親会
霞ヶ関東海倶楽部にて参加20社30名
- ◎昭和59年7月27日 講演会 講師 新日鉄釜石ラクビー部
監督 松尾雄治氏 参加11社30名
- ◎ " 7月11日第10回懇親ゴルフ会よみうりカントリークラブにて
8月21日 都立工業技術センター技術懇談会
参加12社 19名
- ◎ " 10月5日 技術講演会 講師 助川電気工業(株)取締役開発部長 小林一夫氏
参加 31名
- ◎ " 10月末 新名簿、変更定款発行
- ◎ " 11月8日～9日一泊見学会 見学先 (株)東芝那須工場
(株)千野製作所久喜事業所 宿泊塩原温泉ホテル
グリーンバレー 参加 13名

工業計器生産実績(通省産業省機械統計月報による)

(%は金額の対前年同月(期)比)

(通産省生産動態統計(機械統計)による。)

品 目 名				5 9 年 8 月			5 9 年 1 月 ~ 8 月		
				数 量 (台)	金 額 (百万円)	(%)	金 額 (百万円)	(%)	
電 気 計 測 器	工 業 計 器	プロセス用工業計器	発信器	温度計	24,800	510	111.1	4,306	112.9
			発信器	流量計	6,945	1,499	134.0	12,196	107.1
			発信器	その他	8,340	1,481	106.2	12,244	106.2
		発信器	(小計)	(40,085)	(3,440)	117.6	(28,746)	107.5	
	※受信計	指示・記録計	142,48	1,602	131.5	13,604	106.0		
	※受信計	調節計	21,938	1,786	111.8	13,368	123.5		
	※受信計	補助機器	13,899	904	114.0	8,479	109.5		
	※受信計	(小計)	(49,585)	(4,292)	118.9	(35,451)	112.9		
	操作器	操 作 器	2,765	416	106.7	3,851	131.7		
	プロセス用分析計	プロセス用分析計	1,141	332	89.0	3,267	71.4		
	プロセス監視制御システム	プロセス監視制御システム	3,419	3,625	89.2	28,894	84.2		
	その他の工業計器	その他の工業計器		5,887	125.4	42,115	107.7		
	(合計)	(合計)		(17,492)	111.7	(142,324)	102.4		

- (注) a. 電気計器、電気測定器、工業計器の生産実績は、機械統計調査票番号39「電気計測器」より
 b. 放射線測定器、医用測定器の生産実績は、機械統計調査票番号38「電子応用装置」より
 c. 公害計測器の大気汚染・水質汚濁・騒音振動の生産実績は、機械統計調査票番号47「計測機器」より
 d. 公害計測器の自動車用の生産実績は、機械統計調査票番号27「空気動の作業・自動車用機械工具、の三刃、機械刃物及びやすり」より
 ※印の分類品目名は、工業会統計の対応のため事務局で記入した。

編集後記

半年ぶりに第14号を発行することができました。去年は比較的景気も良かったような気がします。今年はどうなるのでしょうか。世の中、特に技術の進歩はおそろしくサイクルが早くなり、のんびりしていると取り残されてしまいそうです。我々センサー業界も例外ではありません。時代に取り残されないように会員間で情報の交換や、共同事業等、可能性をさぐってゆけたら、と思います。

昭和60年1月発行 No.14

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都品川区西五反田1-13-11 (西村ビル)

電話 494-0671